

日本医師会インターネット生涯教育協力講座<アトピー性皮膚炎における外用療法の実際>

## アトピー性皮膚炎治療の現状 - 2

診断、治療の手順

● 総監修 ●

東京逋信病院皮膚科

江藤 隆史

## 診断、治療の手順

### 【1】アトピー性皮膚炎の概要

#### ○アトピー性皮膚炎の疫学

- アトピー性皮膚炎の患者は増加傾向にある。
- 2007年に実施された皮膚科受診患者の多施設横断全国調査では、0～5歳と21～25歳をピークとする2相性の分布を示す一方、46歳以上の患者も1割近くおり、幅広い年齢層にわたる。



## ○アトピー性皮膚炎の定義と診断基準

日本皮膚科学会の診療ガイドラインでは、アトピー性皮膚炎の定義と診断基準を示している。

### [定義]

増悪・寛解を繰り返す、掻痒のある湿疹を主病変とする疾患であり、患者の多くはアトピー素因を持つ。

### [診断基準]

症状の重さ・軽さを問わず、次の3つを満たすものをアトピー性皮膚炎と診断する。

#### 1. 掻痒

#### 2. 特徴的皮疹と分布

##### ①皮疹は湿疹病変

- 急性病変：紅斑、湿潤性紅斑、丘疹、漿液性丘疹、鱗屑、痂皮
- 慢性病変：浸潤性紅斑・苔癬化病変、痒疹、鱗屑、痂皮

##### ②分布

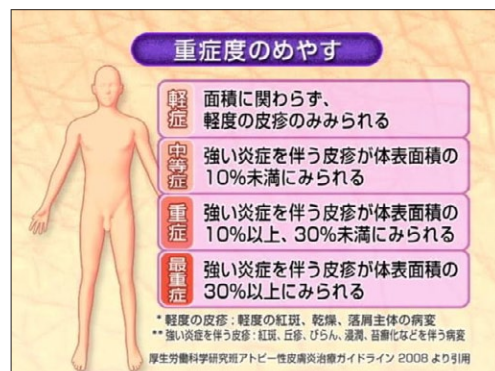
- 左右対側性  
後発部位：前額、眼囲、口囲・口唇、耳介周囲、頸部、四肢関節部、体幹
- 参考となる年齢による特徴  
幼 児 期：頭、顔にはじまりしばしば体幹、四肢に下降。  
幼 小 児 期：頸部、四肢屈曲部の病変。  
思春期・成人期：上半身(顔、頸、胸、背)に皮疹が強い傾向。

#### 3. 慢性・反復性経過(しばしば新旧の皮疹が混在する)

乳児期では2カ月以上、その他の年齢では6カ月以上を慢性とする。

## ○重症度の評価

- 重症度の評価にはいくつかの基準が提唱されているが、右図は2008年に提案された簡便な評価基準である。



症状の程度を見て、触って理解することが重要である。

## 【2】アトピー性皮膚炎の治療

### ○治療の3本柱

- 「炎症性皮膚疾患で、その発症・悪化には多くの因子がかかわり、皮膚に機能異常が存在する」という疾患概念に基づき、以下の3つを柱として治療を行う。

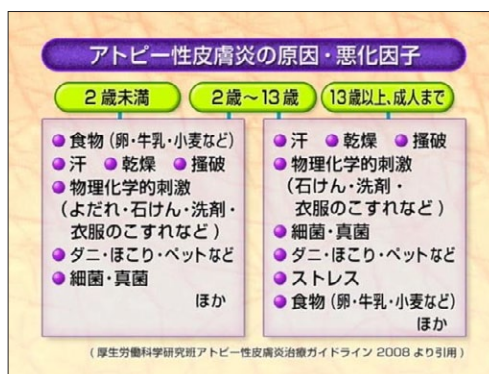
- ①原因・悪化因子の検索と対策
- ②スキンケア  
(皮膚機能異常の補正)
- ③薬物療法



- これらは等しく重要で、症状の程度によって適切に組み合わせる。

### ○アトピー性皮膚炎の原因・悪化因子の検索と対策

- 原因・悪化因子には、食物、発汗、物理的・化学的刺激、環境因子、細菌・真菌、接触抗原、ストレスなどがあげられる。その結果、誘発されるかゆみに対する掻破によって、痒疹性皮膚疹をさらに悪化・遷延化させる重要な悪化因子となる。
- 各因子の重要性は個人個人によって異なるため、診療を通してそれらを十分確認し、適切な対策をとる必要がある。



### ○スキンケア

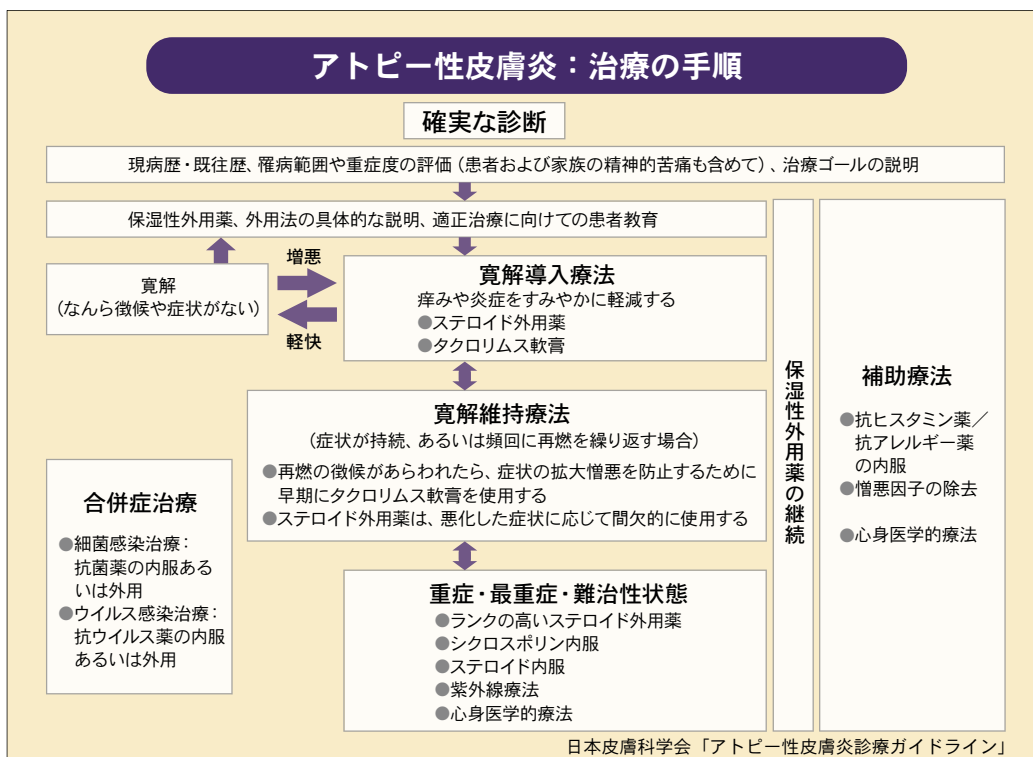
- アトピー性皮膚炎患者の皮膚の状況、すなわち水分保持能の低下、痒みの閾値の低下、易感染性などの皮膚機能異常に対し、スキンケアにより補正を行う。



## ○薬物療法

薬物療法については、日本皮膚科学会「アトピー性皮膚炎ガイドライン」の「アトピー性皮膚炎の治療の手順」に治療指針が示されている。

- 薬物治療に際し、外用薬や外用法の具体的な説明と、適正治療に向けての患者教育は必ず行うべきである。



### <寛解導入療法>

- 痒みや炎症を速やかに軽減するものである。
- ステロイド外用薬やタクロリムス軟膏を用いる。
- 並行してスキンケアのための保湿性外用薬を継続し、補助療法として抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬を用いたり、増悪因子の除去や心身医学的療法に努める。

### <寛解維持療法（症状が持続、あるいは頻回に再燃を繰り返す場合）>

- 再燃の徴候が現れた場合、症状の拡大増悪を防止するために早期にタクロリムス軟膏を用いる。
- ステロイド外用薬は、悪化した症状に応じて間欠的に使用する。

### <重症・最重症・難治性状態>

- ランクの高いステロイド外用薬を用いる。
- 場合によってはシクロスポリン内服薬やステロイド内服薬の使用も考えられる。
- 紫外線療法などを行うこともある。

※細菌感染治療やウイルス感染治療など、合併症の治療も並行して行う。

### ○アトピー性皮膚炎の合併症

アトピー性皮膚炎の合併症にはさまざまなものがあるが、大別するとアレルギー疾患、皮膚感染症、眼科的疾患、その他の4つがある。

合併症	
アレルギー疾患	<ul style="list-style-type: none"><li>● 気管支喘息</li><li>● アレルギー性鼻炎・結膜炎 など</li></ul>
皮膚感染症	<ul style="list-style-type: none"><li>● 伝染性膿痂疹</li><li>● 伝染性軟属腫</li><li>● カボシ水痘様発疹症 など</li></ul>
眼科的疾患	<ul style="list-style-type: none"><li>● 白内障</li><li>● 網膜剥離 など</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 精神症状</li><li>● 神経症状 など</li></ul>